

ごあいさつ

日頃より皆さまには、北陸労働金庫に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2018年度の国内経済は、緩やかな景気の拡大が続き、戦後最長とされる「いざなぎ景気」の拡張期を超えた可能性があると言われております。企業収益が史上最高益を更新する中で設備投資が堅調に推移し、雇用・所得環境の改善傾向も続きました。しかしながら、個人消費は、自然災害や天候不良の影響もあって力強さを欠き、住宅建設も弱い動きとなりました。また、輸出が総じて伸び悩み、生産活動も高水準ながら年度後半には一部に弱さがみられるようになりました。

日銀のマイナス金利政策が長期化するなかで、金融機関は厳しい経営環境が継続しています。また、キャッシュレス化やAIの導入など、金融機関を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。

こうしたなか、2018年度は、第6期中期計画の2年目として、「I. 会員・推進機構等との連帯と協働による、ろうきん運動の前進」「II. 安心してご利用いただける商品・サービスの提供」「III. お客様の期待に応える『人財』育成」「IV. 安定した経営基盤の構築」の4つの柱に基づき事業を進めてきました。さらに、「信用第一」「現場第一」「人が第一」を経営の3本柱として取り組みを進めてきました。

2019年度は、厳しい経営環境の下、限られた経営資源の効率的な活用によって、より少ない費用でより多くの収益を上げることが求められています。こうした観点から、効率的な店舗の再配置が不可欠となっています。

また、収益を上げるためには、経営の健全性を維持しつつ、経営管理とリスク管理とを一体のものとして、その高度化を図るため、「リスクアパタイト・フレームワーク」の構築に取り組みます。

当金庫は、勤労者のための金融機関として、会員と協働して「生活設計・生活応援・生活改善」を運動の柱とした「暮らしステップアップ運動」を展開するとともに、「人生100年時代」ともいわれる長寿化を見据えた資産形成等、生涯取引の推進を図ります。

今後も、お客さまとの信頼関係を強め、引き続きお客さまに安心と良質な金融サービスを提供していくために、諸課題に全力で取り組んでいきます。

皆さま方には、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



2019年 7月

理事長 狩山 久弥

当金庫の概況

2019年3月末現在

名称：北陸労働金庫
所在地：石川県金沢市芳斉2-15-18
設立：1954年5月1日
(2001年10月1日合併し、北陸労働金庫発足)
常勤役員数：499人
店舗数：31店舗(富山県10、石川県12、福井県9)
事業内容：労働金庫法に基づく預金、融資、為替、
国債・投信販売など金融業務全般
出資金：40億24百万円
団体会員数：1,859会員
間接構成員数：393,409人
預金残高：7,589億48百万円
貸出金残高：4,145億37百万円
自己資本比率：単体10.22% 連結10.25%
子会社：(株)北陸労働金庫サービス

全国ろうきんの概況

2019年3月末現在

金庫数：13金庫
店舗数：620店舗
常勤役員数：11,286人
会員数：123,376会員
(うち団体会員数51,381会員)
間接構成員数：11,310,317人
出資金：954億円
預金残高：20兆3,612億円
貸出金残高：13兆5,563億円

